

「あの方は復活なさってここにはおられない」

(マルコによる福音書16:1-8)

神の子、イエス・キリストは十字架につけられ、無力なまま死んでしまいました。すべては終わった。誰もがそう思った。遺体は引き取られ、墓に葬られました。墓の入り口は大きな丸い石で塞がれました。

イエス様の死を遠くから見守っていた婦人たちは、すぐにでもイエス様のご遺体の近くに行きたかったのでしょう。安息日の翌日、日の出を待ってすぐ、墓の入り口の大きな石を誰かがどかしてくれないかと心配しながらも墓へ向かいました。しかしなんとということでしょう。墓に行ってみると入口の大きな石が転がされているではありませんか。しかし、彼女たちを驚かせたのはそのことではなく、墓に座っている若者を見たときです。彼女たちはひどく驚きました。明らかに人知を超えたことが起こっている。彼女たちはおそらく、この事態を正しく捉えることなどできなかつた。そんな彼女たちに白い長い衣をまとった若者は言いました。

「驚くことはない。」

誰が驚かずにいられるのでしょうか。しかし今は、この事態を正面から見つめなければならぬ。墓の石がどけられている。不思議な若者がいる。そして、主イエスのご遺体がない。この事実を見つめなければならぬ。なぜなら今、神によってなされた出来事が目の前で起こっているからです。若者は続けます。

「あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを探しているが、あの方は復活なさってここにはおられない。」

今、神の介入によって、現実が、まったく変えられたのです。死は終わりではなかった。絶望の中にあつた婦人たちの喜びはどれほどだつたでしょう。十字架という最悪の出来事の先に、最高の喜びが用意されていたのです。そして、これこそ、主イエスを通して神がわたしたちに示された究極の救いです。わたしたちがどんなに最悪な状況にあつても、神は必ずその先に喜びを用意して下さっている。最悪の先に必ず希望がある。このことをこそ、神はご復活を通して約束さしてくださつたのです。

白い衣を着た若者はさらに言いました。

「さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなた方より先にガリラヤへ行かれる。かねて言われていた通り、そこでお目にかかれる。』」

若者はペトロだけを名指ししました。あのイエスを裏切つた、弟子の代表であつたペトロ。このペトロが名指しされたのは、ご復活の主イエスは、裏切つた弟子たちとの関わりを断つどころか、彼らを赦し、なおも関わりを求められているからに他なりません。なんとという恵みでしょうか。ご復活の出来事とは、主イエスの絶対的な赦しをもわたしたちに約束してくださつた出来事なのです。わた

したちが神から離れ最悪の状況へと迷い込もうとも、神はわたしたちのことを必ず赦し、必ず主イエスとともにある命へと招いてくださる。そしてその先に用意されている喜びへと導いてくださる。これが、ご復活によって約束されたことです。

若者は「ガリラヤ」に主イエスは先に行かれたと告げます。「ガリラヤ」とはどこでしょうか。それは、日常の中にあります。なぜなら、主イエスは毎日人びとの生活の中へ、日常の中へと出かけて行かれたからです。とりわけその日常の片隅で苦しむ命、痛む命、小さくされた命のもとへと出かけて行き、福音を告げ知らせました。主イエスは、ご復活されてすぐにもその日常の只中へと出かけて行かれたのです。小さくされた命の苦しみ、痛みの只中に、ご復活の主イエスはすでにおられる。天使が言った「ガリラヤ」とは、単なるイスラエルの一地域のことを言っているのではなかったのです。この主イエスの働きの原点に立ち帰りなさいと、天使は告げたのです。天使が指し示したその現場。ガリラヤに駆けつけるとき、弟子たちも、婦人たちもそこにもうすでにおられるご復活の主イエスに出会うことができる。そのとき、絶望のなかで生きながらにして死んでいた彼らの命は新たに動き始める。そのとき、彼らは生きながらにして復活の命に与るのです。

「ガリラヤへ行きなさい。」この言葉は、主の弟子であるわたしたちにも告げられています。わたしたちの教会にとって、わたしたち一人ひとりにとってのガリラヤとはどこなのか。あらためて問い直しましょう。それは、わたしたちの日常の中にあるのです。そして、わたしたちも出かけて行きましょう。道を外れてしまうこともあるでしょう。しかし、弟子たちを赦されたように、主イエスは裏切っても決して見捨てず、赦し、歩むべき道を導いてくださいます。主イエスのご復活によってそのことが約束されているのです。この約束を信じ、赦されながら、この世の闇の只中へ遣わされて行きましょう。そして、暗闇の中で生きる人々に、主イエスのご復活を宣言するのです。暗闇の先に必ず希望が用意されているぞ！罪も、悪も、死でさえも勝利することはないのだ！このことを宣言するのです。

イースターおめでとうございます。わたしたちが絶対に赦されること、絶望の先に希望が用意されていることがわたしたちに約束された出来事、主イエスのご復活を心から祝いましょう。そして、心からの喜びと共に、感謝して神に祈りをささげしましょう。主イエスは誠に復活されました。主のご復活、おめでとうございます。